

箱根駅伝の見所

長谷川 修

正月の大学箱根駅伝は異常な人気だ。TV中継の視聴率は30%、沿道の観客は二日で百万人と言うから国民的行事だ。

三〇年前戸塚に住んでいた。戸塚警察の近くで戸塚中継所まで歩いて五分である。戸塚中継所は、往路は二区と三区の、復路は八区と九区の中継点で、峠の頂上にある。往路では権太坂を越えた二区の走者がラスト八〇〇mで三五mを登る急坂があり、復路では遊行寺の坂を終えた八区の走者にラスト一・二kmで二五m登る試練が待つ。いろいろ波乱やドラマが起きる場所であり、近くに住んでいるとリアルで観たくなる。

観戦場所を見つけるのに五年程かかった。初めの年は中継所で襷渡しを観ようとしたが、大勢の関係者や陸上部員で近づけない。次の年は観客の少ないスタートから数百m先の地点に立ったが、襷を受けた走者は下り坂を一気に走り一瞬。ある年は走者と反対側の沿道から観たが、選手は遠くを静かに走っており感動なし。

試行錯誤を経て辿りついたのが、ゴール手前の数百m地点で登り坂の中ほどである。二区の走者の中には疲労困憊で倒れそうな者もいるし、八区の走者は繰上げ時間との競争で襷を繋ぐべく必死になっている。見つけた場所は、当時監視員もおらず狭い歩道で足場も悪い所だったが、最近のTVで確認すると大勢の観客で溢れていた。

二〇数年前大田区の池上に転居した。駅伝を沿道から観られる京急蒲田駅まで三〇分の所である。蒲田では、一区は日本橋から一五km程で選手はほとんど団子状態だし、一〇区は大差がついて間延びすることが多い。

いろいろ試した挙句見つけたのは、正月三日に横浜駅前で九区の走者全員を観届けてから、電車で東京駅に移動し京橋・日本橋の間で一〇区のゴール直前を観るコースである。といっても日本橋界限は大勢の人で、レースよりも観客を観ることを楽しむ。今年は四年ぶりにコロナの完全解除で、各大学の応援団が賑やかに活躍していた。

東京駅の食堂街で焼鳥に熱燗を傾け、家路に付く。